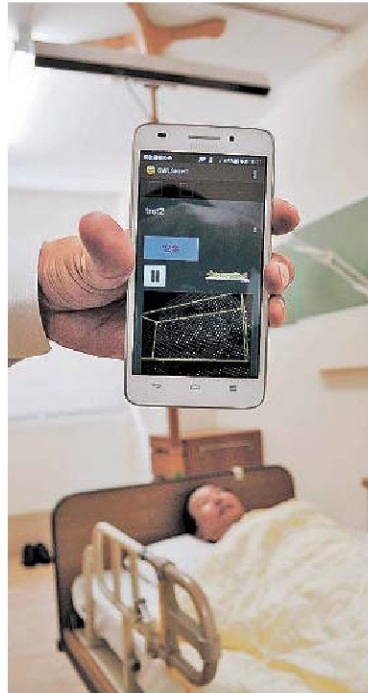


要介護者の危険 スマホに「警告」

松波総合病院がシステム導入

センサーでベッド見守り



患者の状態を表示するスマートフォンの画面。安静に寝ているかどうかを遠隔で確認できる。＝羽島郡笠松町田代、松波総合病院

松波総合病院(羽島郡笠松町田代)は、ベッドに横たわる要介護者を赤外線センサーで見守る新システムを導入

入する。要介護者がベッドから立ち上がった際に、転ぶ恐れを察知してスマートフォンやタブレット端末へ通知する仕組み。離れた部屋にいても要介護者の安全に寝ているかが分かるため、介護に携わると呼ばれる装置を頭上に設置し、センサーでベッド上の人の状態を読み取る。県の補助金を受けて機器を購入。7月をめどに介護老人保健施設で導入する。

端末には、要介護者が安静に寝ている時は「安全」、ベッドの端に腰掛けたり柵から乗り出していると「要確認」「危険」などの表示が出るため、状況がリアルタイムで把握できる。同病院は、認知症など常に見守る必要がある人のケアに役立つと見込んでい

る。担当者は「職員の手間見回りなどで負担減が期待できる。より良いサービスにつなげたい」と話している。

(山田俊介)